



異国に對し
日本の恥をし
かかぬ所が肝要

二代藩主 鍋島光茂

佐賀藩
長崎警備
のはじまり展

SAGA Domain was sent
on a special mission to guard
to NAGASAKI Port since 1642

平成 24年 5月28日[月] ~ 8月4日[土]

開館時間: 9時半~16時 / 日・祝は休館
入館料: 300円 (小学生以下は無料)



徴古館

The Museum CHOKOKAN

NABESHIMA

(佐賀中央郵便局 東隣)

佐賀藩 長崎警備のはじまり

寛永19年(1642)、3代将軍徳川家光から長崎警備の命が初代藩主・鍋島勝茂に下って今年で370年になります。江戸時代の鎖国体制下でヨーロッパ船が来航する唯一の港である長崎港の警備は国防上の重要任務でした。勝茂以後も藩の最重要任務として歴代藩主によって継続され、幕末の動乱期に至ります。本展では天草・島原の乱で藩主・勝茂が着用した甲冑、長崎での警備の様子や台場を描いた絵図などによって、長崎警備のはじまり(端緒)に焦点をあて、その佐賀藩にとっての意義を探ります。



● 天草四郎陣中旗【パネル展示】
原所蔵：天草市立天草キリシタン館(重要文化財)

寛永14年(1637)におきた天草・島原の乱のクライマックス「原城の戦い」で、天草四郎が使用したと伝えられる陣中旗。一揆勢が籠城する原城本丸への一番乗りを果たし、この旗を奪取したのは佐賀藩士・鍋島大膳だった。長崎警備の白羽の矢が佐賀藩に立った理由のひとつには天草・島原の乱での活躍があったというが、乱での佐賀藩勢の武功を象徴する貴重な逸品である。



● 青漆塗黄糸威二枚胴具足

初代・鍋島勝茂が天草・島原の乱で着用した具足。乱では各藩の武将が奇抜な具足を着用したといわれるが、本品は機能優先の実践的な具足。その風格は、原城に攻め入った佐賀藩勢3万5000人の指揮官にふさわしい。

「すわ、鍋島より城乗るぞ」
天草・島原の乱

寛永19年(1642) 佐賀藩
長崎警備のはじまり

幕府がポルトガル船の来航を禁止したのが寛永16年(1639)。しかし翌年には貿易再開を求めて再来航したため、幕府は乗組員71名中61人を処刑し、残る下級船員13名を「重て日本国内に来る事なかれ」とい聞かせ、本国へ送り返し、ポルトガル船を長崎湾に焼き沈めた。その報復に備え、翌年に福岡藩が、翌年に佐賀藩(初代藩主・鍋島勝茂)が長崎港の警備を任命されたのが長崎警備のはじまりである。「普続大成記」には、長崎警備の大役が熊本・細川家ではなく、佐賀・鍋島家と福岡・黒田家になった理由についての大老らの問答が載せられている。鍋島家については、①長崎に佐賀藩領があること、②天草・島原の乱での活躍、③朝鮮での武功、④鍋島勝茂の正室は家康の養女という家柄などが挙げられているが、特に天草・島原の乱での活躍に力点が置かれている。

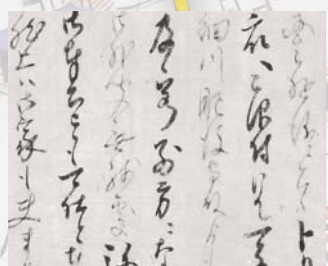


● 正保四年長崎警備の図

小城・蓮池・鹿島をはじめとする佐賀藩重臣の27家について、各家の惣旗・団居・馬印など71図が彩色で描かれており、その意匠の奇抜さと個性は見るものを飽きさせない。なかには天草・島原の乱で各家が用いた差物の記録と合致するものがあり、乱での佐賀藩勢の陣場の賑わしさをほうふつとさせる。

● 諸家団居馬騷昇図

叔父の忠告



● 鍋島直弘口上書書(佐賀県立図書館所蔵)

初代・勝茂の四男で白石・鍋島家の祖である鍋島直弘は、甥にあたる2代・鍋島光茂に対し、公家文化に傾く光茂の趣向や藩運営の手法が今のままだと鍋島家の存続は難しいとして、「御機嫌をも憚らず七カ条にわたり忠告している。なかでも長崎警備に関してとも字数を割いており、細川・肥後守殿も長崎警備の任務を担っているといっているが、鍋島家が任務を外されれば「御家もそれまで」と厳しい。



● 宝永二年長崎警備の図

長崎警備は、佐賀藩と福岡藩が隔年交替で担当した。ただ、非番年でも一定の人員を配備しななければならなかった。各台場の絵図や調練図など、警備の具体像も紹介する。

警備の
実際



● 茶地結立湧花鳥模様欄干

「唐物」

—長崎経由の輸入品

鎖国体制下の日本では、ヨーロッパや中国、東南アジアなど異国の文物は一手に長崎へもたらされた。長崎警備を担った佐賀藩はこれらの豊かな文化をいち早く享受できる環境にあった。長崎貿易により入手されたいわゆる「唐物」は大名たちの憧れの対象であり、有益な贈答品でもあった。また一方で佐賀藩においては唐物の受容により鍋島焼や鍋島緞通など、独自の文化が育まれた。

第11回財団法人鍋島報効会研究助成 研究報告会

平成23年度に財団法人鍋島報効会の研究助成を受けた4研究者による研究報告会。
◇ 6月2日(土) 14:00～ 於:徴古館2階 資料代:200円
◇ 岡寺 良(九州歴史資料館)「寺院遺構からみた脊振山上宮・東門寺跡と中宮・霊仙寺跡の研究」◇ 松下久子(長崎県文化振興課)「肥前磁器における漆装飾の変遷と展開」◇ 馬場良平(福岡・唐津往還を歩く会)「伊能忠敬測量隊の肥前国(特に佐賀県内)踏査とその足跡を追う」◇ 平尾洋美(佐賀県芸術文化育成基金)「佐賀にわか—その系譜と佐賀の芸能」

第18回 プレイエル小音楽会

昭和6年、朝香宮家鳩彦王の第一王女・紀久子様が13代鍋島直泰公に降嫁された際にの婚礼調度「プレイエル」の音色を楽しみませんか
◇ 7月1日(日) 午前の部11:00～/午後の部14:00～
◇ 参加費:1,000円(小学生以下は500円)
◇ 演奏:深川めい子(うた)/徳田千佳子(ピアノ)
◆ 必ず事前の予約が必要です。
参加希望の方は、電話・メール等にてお申込みください。
TEL・FAX 0952-23-4200 メール info@nabeshima.or.jp



徴古館
The Museum CHOKOKAN
NABESHIMA

◇ 入館料:300円(小学生以下は無料)
◇ 開館時間:午前9時30分～午後4時(日・祝は休館)
◇ お問合せ:(0952) 23-4200 / info@nabeshima.or.jp
◇ 主催:財団法人鍋島報効会(佐賀市松原2丁目5-22)
◇ 徴古館ホームページ http://www.nabeshima.or.jp

◆ 長崎自動車道 佐賀大和I.C.から市街方面へ車で20分
◆ JR佐賀駅から徒歩約20分
◆ 佐賀駅バスセンターから、市営・昭和・祐徳の各バスで...
◇ 「県庁前」下車、東へ徒歩3分
◇ 「佐嘉神社」下車、西へ徒歩1分



駐車場
あります